

一組織・構成員一

<中央検査部>

部長：今北正美 検体検査管理者：森山あづさ
 科長：三ノ浦保彦 科長代理：原克則
 主幹：栄川智子、中村雅美
 臨床検査技師（総数）：31名（うち、非常勤1名、臨時嘱託員4名）

<輸血部>

部長：安見正人
 輸血部担当技師：4名（他部門と兼務者含む）

<病理診断科>

部長：今北正美
 病理担当技師：5名（他部門と兼務者含む）

一基本方針・目標一

<基本方針>

- ・常に患者様の立場に立って考え行動します。
- ・精度の向上を計り、良質な検査結果を提供します。
- ・業務・経営改善に努力し効率のよい検査を行います。

<目標>

- ・検査の迅速化を行い、待ち時間の短縮に貢献する。
- ・検査技術のさらなる向上を目指す。
- ・チーム医療の一員として貢献する。

一各部門の概要及び実績一

<検体（生化学、免疫、血液、一般）検査部門>

右肩上がりに増加し続けて来た件数が、2017年度は約4%減少した。内訳は、約5%の入院検査の減少と約3%の外来検査の減少である。

今年度は、システムによる検査データチェックを強化し、効率よく運営できるようにした。

特に感染症検査については、異常データを検出した場合、迅速に検査の追加、加療とつなげる事ができる様に、定期的に検査結果を抽出しデータを提供するシステムを構築した。

血液検査部門では、造血幹細胞移植の実施によりCD34測定を開始するようになった。件数を重ねるにつれ迅速にデータを提供できるようになった。

【今年度の成果と反省点】

検査マニュアルの見直しにより、分析器トラブルによる結果報告遅延を最小限まで減少させることができたが、完全になくすことはできなかった。

【来年度への抱負】

複数分析機の検査項目については、報告遅延の完全回避を目指す。

生化学・血液分野担当者の人材育成を2名行い、2交代勤務に対応可能な体制作りを行う。

(外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
生化学的検査	81,349	87,440	88,144	87,852	91,129	84,963
血清・免疫学的検査	7,699	7,990	8,271	8,211	8,247	7,333
血液学的検査	25,828	27,964	28,260	28,254	29,373	27,255
一般検査	13,297	14,025	14,073	13,837	14,434	13,196
合計	128,173	137,419	138,748	138,154	143,183	132,747

(外来)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生化学的検査	89,490	84,798	85,923	88,208	82,104	90,934	1,042,334
血清・免疫学的検査	7,883	7,085	7,294	7,613	7,043	7,610	92,279
血液学的検査	28,811	27,311	28,318	29,416	26,986	29,552	33,7328
一般検査	13,981	13,343	13,531	13,477	12,671	13,974	163,839
合計	140,165	132,537	135,066	138,714	128,804	142,070	1,635,780

(入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
生化学的検査	60,788	60,645	55,703	57,593	63,007	58,155
血清・免疫学的検査	1,184	1,221	1,182	1,305	1,361	1,155
血液学的検査	24,609	24,249	22,854	23,401	25,827	24,747
一般検査	8,450	7,819	7,400	7,946	7,484	6,417
合計	95,031	93,934	87,139	90,245	97,679	90,474

(入院)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生化学的検査	63,433	63,513	66,011	66,636	59,048	62,227	736,759
血清・免疫学的検査	1,106	1,247	1,208	1,214	1,154	1,145	14,482
血液学的検査	26,584	26,863	28,345	28,377	25,412	26,466	307,734
一般検査	6,880	6,672	8,656	9,630	8,343	8,343	94,040
合計	98,003	98,295	104,220	105,857	93,957	98,181	1,153,015



<微生物学的検査部門>

培養検査件数に大幅な増減はないが、今年度の季節性インフルエンザは全国的にも大流行し、当院でも迅速検査件数は増加した。また昨年以上に検出される耐性菌が多様化・増加しており、このような現状に適切に対応できるよう、最新の検査法など細菌学についての情報収集とスタッフの知識と技術向上に努め、ICTと連携し院内感染対策に取り組んでいる。

【今年度の成果と反省点】

院内でも入院患者および職員で、インフルエンザ陽性者が多数発生し、病棟でもアウトブレイクが起こった。迅速検査を担当している細菌室では、入院患者での陽性発見時に迅速に関係各所に電話連絡を行い、院内での感染拡大防止に努めた。

また、海外で医療行為を受けた帰国者から日本でも稀な多剤耐性アシネトバクターが検出された。早期の菌検出にはICTからの事前の情報提供と、細菌室での各種耐性菌のための検査を早期から取り組んだことが、院内感染対策上、非常に役立ったと考える。

【来年度への抱負】

来年度は、AST（抗菌薬適正使用支援チーム）が発足し、これまで以上に多職種と連携し活動することになる。その中で細菌室は検出菌に関する様々なデータ解析作業を担う

ことになるため、これまで以上に業務の効率化をすすめ、細菌培養検査との業務両立に努めたい。

(外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
微生物学的検査(一般)	892	1,123	1,014	1,033	1,075	960
微生物学的検査(抗酸菌)	126	108	134	97	100	123
微生物学的検査(迅速)	188	210	165	94	145	158
合計	1,206	1,441	1,313	1,224	1,320	1,241

(外来)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
微生物学的検査(一般)	892	895	1,084	1,039	899	778	11,684
微生物学的検査(抗酸菌)	135	130	133	127	131	103	1,447
微生物学的検査(迅速)	171	191	371	476	446	289	2,904
合計	1,198	1,216	1,588	1,642	1,476	1,170	16,035

(入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
微生物学的検査(一般)	2,981	2,945	2,752	2,675	2,956	2,838
微生物学的検査(抗酸菌)	26	22	35	74	61	52
微生物学的検査(迅速)	37	30	24	24	24	24
合計	3,044	2,997	2,811	2,773	3,041	2,914

(入院)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
微生物学的検査(一般)	3,290	2,958	3,382	3,517	2,818	3,223	36,335
微生物学的検査(抗酸菌)	74	42	74	80	41	39	620
微生物学的検査(迅速)	43	43	51	200	106	98	704
合計	3,407	3,043	3,507	3,797	2,965	3,360	37,659



<病理診断科>

病理検査では、臨床側の要望であったOSNA™(直接遺伝子増幅)法を用いたリンパ節転移検査システムを導入し、病理検査技師全員が実施できるよう周知した結果、乳腺術中迅速診断における精度の高い検査結果を返却することが可能となった。操作性が煩雑なため慣れることが必要であるが、さらなる迅速報告に寄与していきたいと考えている。また、患者様の来院に伴う、生検材料の至急報告の要望も増加傾向を示し、それに対応するように迅速処理および、結果報告に貢献してきた。

【今年度の成果と反省点】

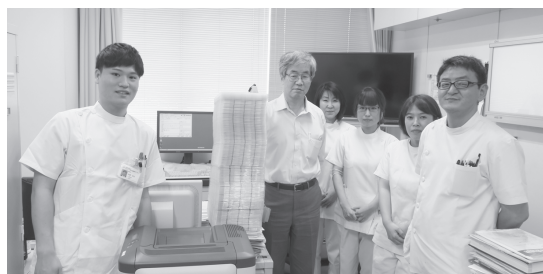
精度の高い検査法を導入できたが、コスト高になることは否めなかった。節約出来るところは節約し、コスト削減にも貢献していけるように努めたい。

【来年度への抱負】

耳鼻咽喉科と共同のもと、当院での花粉調査を実施できるように、現在準備調整しているところである。今後も臨床からの信頼はもとより、精度を落とさぬように尽力していきたいと考えている。

(外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
病理組織標本作成	179	193	201	197	189	194	203	191	184	146	150	157	2,184
術中迅速病理組織標本作成	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3
細胞診(婦人科材料)	282	252	343	258	195	248	323	266	204	212	226	275	3,884
細胞診(その他材料)	132	145	156	143	166	145	163	151	169	146	167	159	1,842
合計	625	590	701	598	551	587	689	609	557	504	543	591	7,913

(入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
病理組織標本作成	215	187	208	215	253	217	244	218	212	185	210	223	2,587
術中迅速病理組織標本作成	14	13	13	17	19	14	24	25	18	20	18	20	215
細胞診(婦人科材料)	2	0	2	6	3	2	1	1	1	2	0	6	26
細胞診(その他材料)	32	33	31	48	53	36	55	53	40	38	30	31	480
合計	263	233	254	286	328	269	324	297	271	245	258	280	3,308



<生理機能検査部門>

生理検査件数は、2017年度は前年に比べほぼ同数であったが、入院の脳波ポータブル件数が増加し対応に苦慮した。装置の移動も頻回で耐応年数に達しているため、故障が頻発している。早期交換が望まれる。

今年度も新たに超音波認定試験で1名(泌尿器領域)の合格者があり、計7名(計25部門)となった。

救命ICU病棟・5階山側病棟・りんくうICU病棟 他病棟のポータブルエコー検査が入院心臓エコー検査では48%、入院血管エコー検査では44%を占めるため、運営において心臓、血管エコーのマンパワーの不足が懸念される。臨床側の要望に応えるため、さらなる人材の育成が急務と考え複合領域を検査できる技師を育成進行中である。

今後の課題としては、予約枠の有効利用、待ち時間の短縮のためシステム導入等を進める必要があると考え、電子カルテ更新時のレポートシステム導入にむけて準備中である。

【今年度の成果と反省点】

超音波診断装置の更新と内部研修の進行により、業務が円滑に進むようになった。脳波担当者の育成を行いポータブル脳波に対応した。

PSG検査の予約枠を2枠に増やした。臨床治験、臨床研究の生理検査も実施している。

【来年度への抱負】

さらなる人材の育成と技術向上を目指し、また超音波画像・レポートシステムの導入により、報告書の充実、検査マニュアルの徹底を行い業務の効率化につなげたい。

生理機能検査(外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心電図	940	947	1,025	973	990	940	1,009	1,000	927	960	929	1,036	11,676
負荷心電図(トレッドミル含む)	103	119	132	120	113	102	108	103	100	108	118	136	10,362
ホラー心電図	33	29	30	17	26	30	38	22	21	38	17	25	326
簡易呼吸機能	282	305	326	338	312	307	288	305	308	323	281	311	3,686
精密呼吸機能	6	4	4	7	4	5	7	5	4	9	9	8	72
脳波	11	11	7	9	10	11	9	15	14	6	10	10	123
脳波(小児)	5	4	3	12	18	7	7	6	5	4	10	13	94
ABR(新生児)	3	4	2	10	3	0	3	4	2	5	3	4	43
ABI-CAVI	158	211	177	186	145	152	164	147	117	135	162	165	1,019
SPP	8	7	6	7	6	7	3	4	1	2	3	6	60
中心血圧	89	121	107	92	78	92	88	74	57	65	76	87	1,026
呼吸抵抗	18	26	26	21	22	14	14	22	29	28	15	23	258
腹部エコー	323	339	421	377	394	362	380	330	374	367	344	401	4,413
表在エコー(甲状腺を含む)	74	70	72	85	87	85	67	76	66	63	68	88	901
乳腺エコー	87	89	87	84	118	68	105	157	91	94	91	98	1,109
心臓エコー	375	373	432	395	387	387	469	407	366	388	388	441	4,788
血管エコー	192	146	196	219	165	167	193	161	155	150	178	175	2,153
関節エコー	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	4
合計	2,708	2,861	3,053	2,952	2,878	2,738	2,952	2,778	2,637	2,746	2,703	3,027	34,033

耳鼻科外来聴力検査	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
標準純音	94	109	121	104	110	90	112	81	81	96	79	78	1,155
簡易聴検	145	147	173	173	171	152	184	142	156	131	159	159	1,892
気管導(L)	2	8	2	4	5	1	2	4	2	7	2	5	44
気管導(R)	8	3	3	1	9	5	2	4	5	3	3	5	51
ABL-B	7	7	9	8	8	10	9	2	8	3	8	3	82
SISI	1	0	1	3	1	2	1	1	1	0	1	1	13
ディンパノ	43	45	70	58	53	46	38	47	46	47	47	38	577
耳小骨筋	4	7	9	10	6	4	11	9	3	7	13	4	87
OAE	0	6	8	11	3	5	6	5	6	2	1	6	59
電気味覚	3	6	5	8	9	4	9	5	3	8	13	2	75
ディスタ味覚	2	1	3	3	3	1	1	2	2	3	4	4	29
語音	0	0	2	3	1	0	3	3	2	1	0	2	17
aABR	0	0	1	0	0	0	0	0	11	0	0	0	12
ABR	4	4	10	5	2	8	7	5	1	3	2	6	57
ASSR	4	4	9	5	2	7	7	5	1	2	2	5	53
ENoG	3	3	7	6	7	3	9	2	4	6	11	1	62
Integrity	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3
クリセロール	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
耳鳴・耳管機能・自記	8	8	9	8	7	8	11	8	2	3	12	3	87
合計	328	359	442	410	397	346	412	325	335	322	357	323	4,356

生理機能検査(入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心電図	99	117	105	105	134	103	92	100	116	128	138	119	1356
負荷心電図(レッドミル含む)	6	0	1	4	3	1	6	2	0	1	3	3	30
ホルター型心電図	9	8	14	7	10	18	11	11	9	9	5	11	116
簡易呼吸機能	13	19	34	28	19	21	20	20	24	18	18	12	243
精密呼吸機能	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
脳波	16	20	33	25	37	31	25	25	23	23	22	21	301
脳波(小児)	1	2	0	2	0	7	1	4	0	1	3	1	14
ABR(新生児)	52	65	54	55	54	48	51	48	60	51	45	62	645
ABI・CAVI	28	21	16	19	16	14	29	18	20	14	16	16	227
SPP	1	1	0	2	0	0	2	0	1	1	3	3	14
中心血圧	3	5	0	0	0	6	3	2	9	3	4	7	36
呼吸抵抗	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
腹部エコー	39	51	42	54	53	45	52	68	63	67	43	40	617
表在エコー(甲状腺を含む)	3	2	0	3	3	2	1	2	5	2	1	3	27
乳腺エコー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓エコー	168	176	173	133	183	160	182	167	166	180	179	182	2,051
血管エコー	67	82	75	87	102	91	99	79	102	114	77	73	1,048
関節エコー	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
救命ABR	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	507	569	548	524	614	527	574	548	598	612	557	554	6,732



<輸血部>

2017年度の輸血関連検査は、外来・入院共に件数が減少した。血液製剤の使用数はRBC・FFPは前年度より増加しPCは前年度より減少している。

【今年度の成果と反省点】

昨年度に作製を開始したクリオプレシピテートは同型の廃棄が続いたためにAB型異型適合血のみとなり、廃棄がなくなった。

血液製剤の廃棄額・廃棄率が2016年度より減少した。

【来年度への抱負】

在庫数の見直しを定期的に行い、来年度はさらに廃棄額の減少と輸血関連製剤の適正使用を目指す。

また、昨年度に行った輸血システムの変更に伴い、造血幹細胞移植の管理業務に携わっていく。

輸血関連検査(外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液型検査	181	589	588	625	623	627	630	608	632	616	584	579	6,882
スクリーニング	44	167	145	147	181	174	192	164	191	182	154	160	1,901
間接クームス試験	25	114	90	123	100	107	96	102	95	95	98	88	1,133
直接クームス試験	0	5	4	4	3	2	2	5	4	3	1	4	37
合計	250	875	827	899	907	910	920	879	922	896	837	831	9,953

輸血関連検査(入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液型検査	23	65	58	74	74	75	78	84	68	70	64	55	788
スクリーニング	0	4	2	0	3	3	4	2	1	3	2	2	26
間接クームス試験	8	20	21	34	23	28	22	28	22	19	21	20	266
直接クームス試験	1	1	1	2	3	6	3	2	2	3	3	2	29
合計	32	90	82	110	103	112	107	116	93	95	90	79	1,109

血液製剤使用額・廃棄額(外来・入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
血液準備単位数(RBC)	814	649	700	692	698	833
血液準備単位数(FFP)	438	462	392	1,154	518	520
血液準備単位数(PC)	1,090	1,015	1,445	1,010	1,085	910
自己血貯血(単位数)	22	32	10	22	21	21
血液製剤購入額(万円)	1,670	1,528	1,891	1,926	1,727	1,615
血液製剤廃棄額	283,386	445,276	301,608	325,783	296,647	265,890
RBC廃棄率(%)	2.8	2.1	2.4	1.5	1.1	4.7

血液製剤使用額・廃棄額(外来・入院)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液準備単位数(RBC)	906	968	1,024	885	811	1,002	9,982
血液準備単位数(FFP)	782	540	562	643	640	624	7,275
血液準備単位数(PC)	1,565	785	1,250	1,175	1,170	1,580	14,080
自己血貯血(単位数)	21	17	14	22	4	24	230
血液製剤使用額(万円)	2,348	1,625	2,037	1,974	1,944	2,419	22,704
血液製剤廃棄額	53,178	79,478	214,758	17,912	41,343	17,912	2,343,171
RBC廃棄率(%)	0.8	0	0.3	0	0.3	0	



一認定検査士一

・超音波検査士

- (超音波指導検査士(腹部領域))1名
- (消化器領域)7名、(循環器領域)3名、(表在領域)5名
- (泌尿器領域)4名、(血管領域)1名、(健診領域)4名

・細胞検査士(日本資格)5名、(国際資格)3名

- ・認定血液検査技師 2名
- ・骨髄検査技師 1名
- ・認定輸血検査技師 1名
- ・細胞治療認定管理師 1名
- ・救命検査認定技師 2名
- ・緊急臨床検査士 1名